



東大寺 212 世別當 筒井寛秀 筆

【発行】

奈良県肢体不自由児者父母の会連合会

<http://www.narakenshiren.gr.jp/>

【発行責任者】 前田 妙子

【メールアドレス】

honbu@narakenshiren.gr.jp

新年のご挨拶

会長 前田妙子

新年あけましておめでとうございます。

平素よりご支援、ご協力いただいております皆さま方に心より感謝申し上げます。

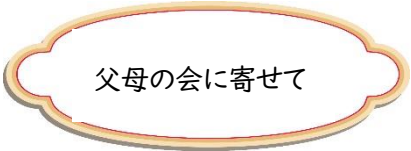
昨年を振り返ってみますと、東大寺総合文化センターで初めて開催させていただきました第17回チャリティー墨書展をはじめ、「奈良県障害のある人及びその家族等に生涯にわたりつながり続ける障害福祉の推進に関する条例」の研修会、「家族信託」の勉強会、「普通に死ぬ～いのちの自立～」の映画上映会、ローザンベリー多和田へのバス旅行、「あいサポートフェスティバル」での障害理解啓発活動等々、様々な事業や活動をしてまいりました。改めまして、ご参加、ご支援、ご協力いただきました皆さま方に感謝申し上げます。12月に開催したクラシック音楽クリスマスコンサートには、明日香養護学校、奈良養護学校の皆さまにもご案内して、数組のご家族が参加してくださいました。若い会員さんがなかなか増えない現状ですが、会員以外の方々にも当会の活動を知っていただくよい機会となったと思います。また、研修会や勉強会の中には、子どもたちがお世話になっている事業所や施設の職員さんにも参加していただいて開催しているものもあります。親の立場である会員はもちろん、支援者の方々と同じ研修会や勉強会を通して意見や感想をいただけることは、とても貴重なことです。障害者本人はもちろん、親、支援者、関係機関の皆さま方の意見や思いを汲み取りながら、障害のある人の生きづらさや課題解決に向けて、今後の活動に生かしていきたいと思えます。

広報誌には、参加者の皆さんの感想や、アンケートの分析等を載せておりますのでお読みいただければ幸いです。

令和6年は、障害者総合支援法等の改正の年です。障害や難病を抱えていても安心して暮らせる地域共生社会の構築が改正の目的とされています。また、障害者差別解消法が改正され、令和6年4月1日から、事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が「努力義務」から「義務化」されることとなります。奈良県においても「奈良県障害者計画」の令和7年度以降の次期改定に向けて、動き出す時期となりました。国の制度や県の施策、条例に謳われていることが具体的にどのように進め実現されているのか、検証していくのは障害者本人とその家族等の役目です。そのためにも、会の活動を通じて国の制度や県の施策について正しく学んでいきたいと思えます。

最後になりますが、今年9月に開催いたします全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会の準備を進めております。どうぞ、皆さま方のご参加、ご協力、ご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。

本年もよろしく願いいたします。


 父母の会に寄せて


奈良県福祉医療部長 山中 淳史

新年あけましておめでとうございます。

奈良県肢体不自由児者父母の会連合会の皆様には、平素から奈良県の障害福祉行政の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。また、前田会長をはじめ会員の皆様が、肢体不自由児者の生活の向上、社会参加の促進など、様々な活動に積極的に取り組まれていることに、深く敬意を表します。

県では、全ての県民が、障害の有無にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し合いながら安心して暮らすことができる社会の実現を目指し、奈良県重症心身障害児(者)の地域生活の支援の充実に取り組んでいます。

令和元年から医療的ケア児等の地域生活に必要な多職種連携の中心となる医療的ケア児等コーディネーターの養成を実施しており、令和5年度時点で166名を養成しました。また、令和3年1月に県全体の支援の中心となる「奈良県重症心身障害児者支援センター」を開設して、3年あまりが経過いたしました。このセンターでは専門相談員を配置し、広域的・専門的な相談支援や各関係機関との連携・調整等を行っており、開設から相談件数も増え続け、令和4年度は、300件を超える相談があったところです。

さらに今年度から、養成した医療的ケア児等コーディネーターの方々が、センターと連携しながら、より一層地域において活動していただけるよう、医療的ケア児等コーディネーターをはじめとした支援者間のネットワークの構築を目的として交流会を開催しました。

しかしながら、重症心身障害児者、医療的ケア児等の地域生活の支援については、より身近な地域における支援体制の構築、県東部・南部地域における居場所づくりなど取り組むべき課題は多くあります。皆様方からもご意見を賜りながら、解決に向け取り組んでまいります。

また、県では、障害のある人とない人がともに理解しあい、支えあう地域社会の構築を目指して、まほろば「あいサポート運動」を推進しております。具体的には、県民への障害理解の普及・啓発を目的とした、あいサポーター研修をはじめとして、「あいサポーターキッズ」を新たに養成するため、子ども向けあいサポーター研修や、あいサポーターキッズの証であるグッズ作成にも取り組んでいるところです。父母の会連合会におかれましても、日頃、まほろば「あいサポート運動」の推進にご協力いただき、深く感謝申し上げます。昨年11月には、初めての取組として、「まほろば『あいサポート』フェスティバル」を実施しましたところ、父母の会連合会の皆様にご協力をいただき、県民の方々に、広く障害について知る機会を提供することができました。引き続き、支えあう地域社会の構築のため、お力添えのほどよろしくお願いいたします。



さて、令和6年度末に現「奈良県障害者計画」は最終年度を迎えます。改定にあたっては、これまで5年間の取組を検証し、より良い計画となるよう、父母の会連合会の皆様をはじめ各関係者のご意見もいただきながら作業を進めてまいります。

県といたしましても、障害のある人が、地域社会において人々と関わり合いながら、自らの意思に基づいて自分の生き方を決定し、自分らしく豊かな人生を歩むことができる共生社会の実現に向けて、しっかりと取り組んでまいりますので、父母の会連合会の皆様におかれましては、引き続きご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、父母の会連合会の益々のご発展を心から祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

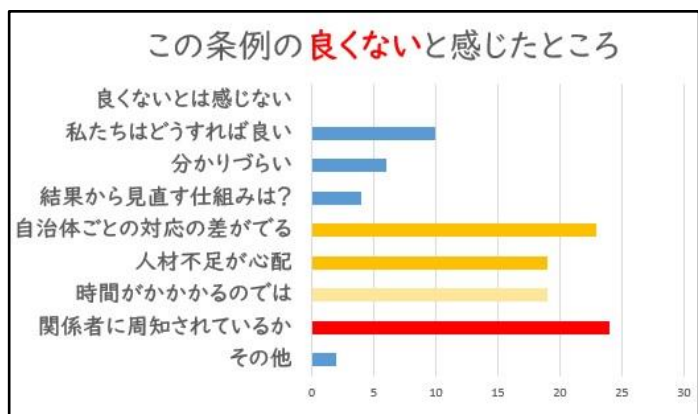
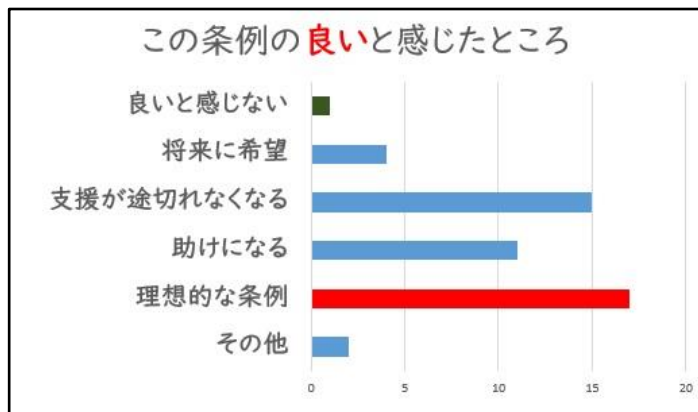


事業報告



研修部会条例勉強会
 「奈良県障害のある人及びその家族等に生涯にわたりつながり続ける障害福祉の推進に関する条例」

日時:2023年6月20日(火)10:30～11:50
 場所:奈良県社会福祉総合センター 5階 大会議室
 講師:奈良県福祉医療部障害福祉課 森本課長
 参加者:当会会員30名、他団体1名、事業所1名



参加者からの感想

- ◆ いい条例だと思いますがどのように実現していくか気になります。できるだけ公平に、すみやすい社会になってほしいです。

- ◆ 障害のある人やその家族の困り事をとりこぼさないようなくみ作りが必要だと思う。そのためには、一番近くにいる個人個人についている相談支援員の資質が問われる。一次接触者や関係機関にうまくつなげて、支援会議等を開き、解決に結びつけられるように体制・しくみ作りが急務だと思う。奈良県障害者総合支援センターが施策を推進する拠点として考えられるが、今後の総合支援センターの役割を期待したい。
- ◆ 「福祉の奈良モデル」に基づき、条例が制定されたことは大きな進歩であると思いき、目的や理念については、よくわかりました。地域格差が大きくなることや具体的にどの様に進めるのかは、まだまだ不安だと感じました。
- ◆ 条例制定については、理想的すばらしい条例であると喜んでいる障害のある人たちの後ろだてになるよう、私たち会員も勉強して地域生活の質の向上に役立てたいと思う。



奈良県肢体不自由児協会助成金 地域療育活動事業
 研修部会「家族信託」勉強会

日時:2023年7月11日(火) 13:00～14:30
 場所:奈良県社会福祉総合センター:5階 研修室C
 講師:司法書士事務所リーガルエスコート
 代表 池内宏征氏

参加者:25名

参加者からの感想

- ◆ 今日は参加できて良かったです。子供に対して、自分に対して、また祖父母に対しての対策、いろいろ勉強になりました。有難うございました。
- ◆ 成年後見について良くない印象があり、家族信託について本で読んだことがあり今回参加させていただきました。普段子どもの介護のことを考えることは多くありますが、自分の親も高齢化してきていることを目の当たりにすることも増えてきて、そろそ

ろ考えなければと思い始めていたので良い機会になりました。法律や制度は、一度や二度聞いたり読んだりだけでは理解が難しいものだと思いますが、分からないから考えるのを止めるのではなく、専門家の先生のお話を聞いて理解を深めさせていきたいと思いました。

- ◆ 先延ばしにしていたが、今日のお話で現実を知ることができた。判断能力のあるうちに家族で話し合っておく事が大切で、家族信託と任意後見をうまく組み合わせて親の思いを残すことができると思った。まずは、障害のある子への財産を残さない事も、後々の負担を考えると大事なことと分かった。



第56回全国肢体不自由児者父母の会連合会
全国大会
第53回中国四国肢体不自由児者父母の会
連合会岡山大会

日時:2023年8月4日(金)~5日(土)
会場:岡山コンベンションセンター(岡山市)
参加者:会員7名・本人1名
内容:8月4日情報交換会
8月5日
10:30~開会式
12:30~記念講演「医療を上手に活用するには」
講師:つばきクリニック岡山医師中川ふみ氏
14:10~シンポジウム
「住み慣れた地域で共生社会の実現」
15:30~閉会式
次期開催県挨拶 奈良県肢連会長前田妙子



第17回南都諸大寺チャリティー墨書展

日時:2023年9月9日(土)~10日(日)
10:00~17:00(10日は~16:00)
会場:東大寺総合文化センター 小ホール・会議室 A B
主催:奈良県肢体不自由児者父母の会連合会
奈良県肢体不自由児協会
作品:圓照寺門跡、中宮寺門跡、法華寺門主、興福寺
西大寺、大安寺、唐招提寺、法隆寺、薬師寺
東大寺のご高僧の皆様方の揮毫作品(順不同)
総作品数:257点
ご来場者数:約350名
主な収益金は、当会の活動資金(肢体不自由児者の
問題解決や福祉向上、理解促進等) 災害義援金など
に充てさせていただきます。

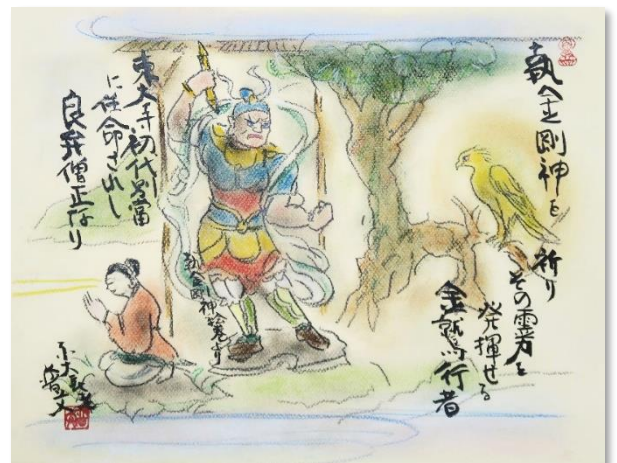
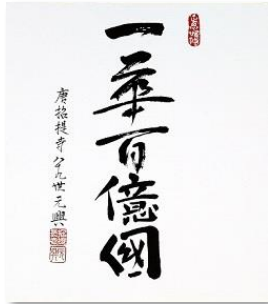
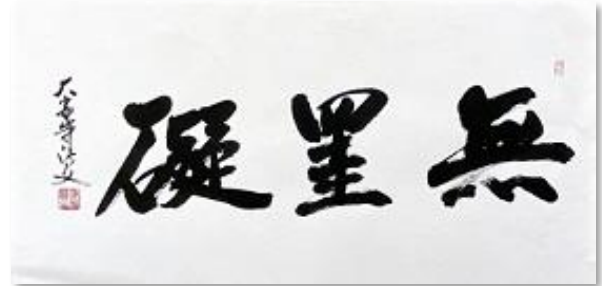
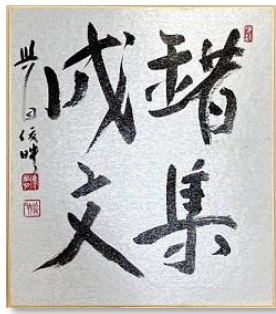
2年に一度開かれる、「南都諸大寺チャリティー墨書展」が、東大寺総合文化センターに場所を移して開催しま



した。今回は、2022年12月にご逝去されました東大寺守屋弘斎長老様や狭川宗玄長老様の遺作も展示させていただきました。静岡県から守屋様の作品を見に来られたご夫妻がおられ、在りし日の思い出を語ってくださいました。

多くの方々のご支援とご理解により、当墨書展が無事に終わりましたことを感謝と共にご報告申し上げます。ありがとうございました。





奈良県肢体不自由児(者)文化・芸術活動
補助金事業
研修部会「普通に死ぬ～いのちの自立～」
(映画製作マザーバード)映画上映会

日時:2023年10月3日(火)10:30~12:30
会場:奈良県社会福祉総合センター研修室C
参加者:40名(会員/本人31名、介護者1名、事業所6名、他団体2名)

マザーバードHPより

重い障がいをもったわが子と地域の中で普通に生きてゆくために、親の会を立ち上げ、行政を突き動かし、理想の通所施設「でら〜と」を立ち上げた、静岡県富士市・富士宮市に住む親たちの取り組みと自立への試みを5年にわたり記録したドキュメンタリーが前作「普通に生きる～自立をめざして～」でした。

その続編「普通に死ぬ～いのちの自立～」では、その後8年、親も子も年齢を重ねてゆくなかで、どうしたら生まれ育った地域で普通に生き、死んでゆくことができるのか……。映画は厳しい現実を見つめます。そして、希望を見つけます!

生活の場・映画について、アンケートを実施しました。詳しくはHPをご覧ください。一部抜粋してご紹介します。

Q.生活の場に関する意見をください。

- ◇ 映画に出てきた様々な事業所、医療関係の助けが必要、どうしていけばその事業所をみつけられるのか、又支援会議をもっともてたらと思う。地域の行政(福祉課、社協、民生委員など)も含め、そんな機会をもてたらと思う。実際面の大変さを思いながら何かの道が開け個人レベルでなくみんなにもよいものになっていけたらと思う。他県でもできていることは、奈良でもできると思います。
- ◇ 知的や精神の方のグループホームは数多くあるが、重度の身体の方のグループホームが全国でも数が少ない。入所ではない生活の場を各地域に作っていく努力を行政も一緒に考えてほしいと願っている。そのためにもしっかり行政に働きかけていかなくてはと思っている。(事業所)
- ◇ 暮らしの場所がない、支援者が足りない、医療体制が整っていない…考えることがたくさんあります。

でも一番足りていないのは、そのことを真剣に考えてどうしたらそれを解決していけるのかということを考えていく人がまだまだ少なすぎるということだと思います。障害者はマイノリティだけど、自分ごととして考えていける人を増やしていきたいと思います。(事業所)

- ◇ 親が高齢になり、介護力の低下を日々感じています。ヘルパーさん達の力を借りながら出来る限り、在宅、地域での生活を望んでいる。グループホーム?欲しいです。

Q.「普通に死ぬ」を見た感想をお願いします。

- ◇ 普通とは何か、当たり前前が当たり前ではないことになってしまうのは、世界を見渡してもよくあることで、普通のむずかしさを感じざるを得ない。でも本人の思う普通になるべく近づけてやりたいのが親心でもある。
- ◇ グループホームの存在が本人ではなく親の為となる。子どもの為だけではない親の気持ち、自分が子どもをみたい、みなければという気持ちがある。医療的ケアが必要な人の通所、グループホームの利用は制度として整う前にその利用者の為を始めなければならぬと先駆けていった人達がいて知った。制度を待っていても始まらない実状がある。利用者の支援にあたる人は親の気持ちにたくさんふれる必要がある。(事業所)
- ◇ 障害のある子供達の居場所作りのすべてが凝縮されている映画でした。子供の事を思う親の気持ちと子供の気持ちをなんとかしようという支援者がいて思いのある人が集まるのだと思いました。共感する映画でした。見る事が出来てよかったです。ありがとうございました。
- ◇ 事業所の職員、福祉を勉強している学生、行政の方々にも観てほしいと思いました。
- ◇ 利用する人それぞれ違うが、必要なサービスが違うのだから、医療・福祉のかき根をこえてもっと自由にサービスを受けられたら良いと思った。(事業所)
- ◇ 市内に肢体不自由の人達のグループホームがありません。知的や精神のグループホームでも、身体障害でも利用できるがあっても、設備も必要だが肢体不自由児者に対する理解やスキルが無いので、利用できません。



第57回近畿肢体不自由児者福祉大会
兵庫大会

日時:2023年10月14日(土)
会場:アクリエひめじ(姫路市コンベンションセンター)
参加者:12名・奈良県障害福祉課坂本課長補佐
内容:
11:00~式典
11:30~12:00 講演「ノーリフトケア:安全と尊厳を守る介護の未来」
13:30~講演「兵庫県立障害児者リハビリセンターの成り立ち~今は~そしてこれから」

会長 前田妙子

「ノーリフトケア:安全と尊厳を守る介護の未来」

「ノーリフティングケア」とは、肢体不自由の障害のある人を持ち上げたり抱きかかえたりせずに行うケア方法のことです。これまでのように人の力に頼った移乗を行わず、本人の自立度に合わせて福祉用具などを活用するという事です。ノーリフティングケアの考え方は、1998年にオーストラリアで確立し、日本でも2013年に厚生労働省が公表した「職場における腰痛予防対策指針」の改定で、「原則として人力による人の抱き上げは行わせない」と明示されました。この指針で示される通り、人力での人の抱き上げは原則として禁止されているのです。これにより、ノーリフティングケアに取り組む施設は増え始めました。

しかし、在宅で暮らしている場合、障害のある子どもの体重が重くなっても介護ベッドを使用していないケースや、リフトを使わず親が抱きかかえているケースが多いように思います。住宅事情も影響していると思いますが、介護する親の身体のため、介護される障害者本人のためにも、「ノーリフトケア」を取り入れて、介護する人・介護される人の双方が安全で負担のない生活をしたいものです。

「兵庫県立障害児者リハビリテーションセンターの成り立ち~今~そしてこれから」

兵庫県内のリハビリの拠点が、県東部(阪神地域)にはなく、また18歳以上になるとリハビリを受けられなくなるケースが多く、その現状を尼崎市肢体不自由児者父母の会が中心になり、切なる要望を兵庫県へ伝え続けられました。成人期のリハビリの重要性を熱く要望し

活動を続けられた結果、行政を突き動かし、様々な困難を乗り越えて、尼崎市に「兵庫県立障害児者リハビリテーションセンター」が設立されました。私自身、娘の身体の状態の変化から、成人期のリハビリの重要性、必要性は感じてますし、現実にな成人期になってからリハビリに通えなくなったというケースをよく耳にします。肢体不自由の障害のある人は、一生を通じてリハビリが必要です。18歳になると、医療機関も小児科から他科への移行が困難ですし、リハビリも切られることも多い現状です。

改めて、成人期の医療や訓練について、父母の会活動を通じて理解してもらえるよう声を上げないといけないと感じました。



奈良県肢体不自由児(者)社会見学補助金事業
さわやかレクリエーション助成金事業

日帰りバス旅行

日時:2023年10月28日(土)8:30~17:45
行き先:ローザンベリー多和田(滋賀県米原市)
参加者:22名(障害児者9名、家族10名、介護者3名)
急な坂を上がるため車椅子けん引補助具 JINRIKI を購入し、他より JINRIKI2 台を借用しました。

※JINRIKI は、芝生や土の路面、砂利道や積雪時・砂浜など今までは極めて困難だった不整地での車いすのスムーズな移動を可能にする車いすの補助装置のこと。災害時要援護者の避難・移送や多方面でも役立ちます。



本部役員 河野正子

社会見学事業のバス旅行で、ローザンベリー多和田に行きました。ひつじのショーに会えると知っていたけれど、なかなか連れて行く機会もなかったため、数日前から親子でワクワクドキドキ。ネットで検索して、何を見ようか、何をかうかと盛り上がっていました。ローザンベリー多和田は、切り開いた山にあり、空気は美味しい、食事はもちろん美味し



かったです。息子は外食が苦手なのですが、パクパク食べて完食でした。新鮮な食材も手作りの料理も良かったのだと思います。

山を切り開いたところなので中腹まで車椅子ごと列車でいき、ひつじのショーに会う為にはそこから車椅子を押し登って行きます。途中、「そりや大変や」とすれ違う人に言われ「それほどでもおー」と応える息子に苦笑いするも、親子だけでは連れて行くことはないなと思っていた場所から園内を見渡せて感動しました。途中、小雨でお菓子の家で雨宿りしていた時は「魔女は帰って来ない?暖炉ないから大丈夫?」と、ヘンゼルとグレーテルを思い出して不安になる息子が可愛かったです。

父母の会の皆さんと楽しい気持ちを共有することができて良かったです。ありがとうございました。



本部役員 宿利三知恵

奈良県肢連の日帰りバス旅行に参加しました。いつもお世話になっている天理交通バスを利用し、車椅子固定が6台もできるので、座席に移乗できない子どもも参加できます。昨夜雨が降りましたが朝には晴天となり、だれも休むことなく出発できました。予定通り「ローザンベリー多和田」に着くと、スタッフがバスの到着を待って案内してくれました。ハロウィーンが間近だったので、園内はハロウィーンのデコレーション、スタッフは、ピーターパン、ウォーリー、ドクター、シャーロックホームズなどなど皆仮装をしていたのでハロウィーンの雰囲気を盛り上げてくれました。

まずは、みんなでレストランでのランチ!滋賀県名産の食材を使い綺麗に盛り付けてあり、スマホでパチリ、みんな美味しいと堪能しました。そこからは自由行動、秋バラが咲く庭園の散策、早速ショップでお土産探し、「ひつじのショー」の農場へとそれぞれ園内を楽しみました。娘と私は、ローザン鉄道に乗って約1キロの旅、ファームガーデンへ向かいました。車いすに乗ったまま乗ることができ、また移乗できる者は車いすを到着駅まで運んでもらえました。そこからは急な上り坂でしたが、けん引式道具で楽々ショーがある場所まで行けました。みんなでショーと写真を撮りました。途中薄暗くなってイルミネーションの電気が付き小雨が降り始めました。マヌカハニー味のソフトクリームを食べ、たくさんお土産を買いこみ、本人はショーのグッズを買って大喜び!帰りのバスの中では、来年どこに行く?と話しました。



重い障害児者が遠出する際の問題は、まずトイレです。おむつ替えができるベッドがあるトイレはまだ少なく、奈良県肢連でもいつも要望しています。でもこうして外出して、子どもの笑顔が見られることは私たちの一番の喜びです。



奈良県主催

まほろば「あいサポート」フェスティバル

日時：2023年11月11日(土)
10:00~15:00

場所：ミ・ナアラ4階(奈良市)

参加者：8名

福祉団体コーナーで展示ブースを行い、当会の紹介パネルや仔鹿会のキャンプのパネル展示、県肢連事業をまとめたプレゼンムービーの上映、SOSカードの無料配布、肢体不自由児協会「手足の不自由な子どもを育てる運動」の絵はがき・クリアファイルの展示販売をしました。



全肢連国庫補助事業「療育相談事業」

全肢連より、社会福祉法人全国心身障害児福祉財団からの委託を受け上記の事業を今年度奈良県が実施することになりました。

目的：在宅心身障害児者の福祉の向上を図る

実施期間：2023年10月3日~11月21日

10月の理事会、訓練会、各地域の父母の会で聞き取りを行い、44件の相談が寄せられましたので、一部ですがご報告します。

◇福祉サービスについて

- ・医療的ケアのある人の入所先・ショートステイ先がない
- ・サービス時間数を支給されても事業所が少なく利用出来ない(県南部)
- ・養護学校卒業後、生活介護事業所が少ない
- ・入所時のヘルパー利用ができない(2件)
- ・移動支援が柔軟に使えない

◇今後の住まいについて

- ・重心や医療的ケアのある人たちのグループホームがない(4件)
- ・ひとり暮らしを始めたいがアパートがみつからない

◇災害時について(3件)

- ・一般の被災者と同じ避難所では生活できない

◇医療について(5件)

- ・小児科で診てもらえない
- ・病院の受診科がなくなり他府県まで行かねばならない
- ・将来のために総合的に診てもらう診療科を紹介してもらえない

◇将来についての不安(4件)

- ・今は福祉サービスを受けながら生活出来ているが介護している親の高齢化と本人たちの病気や二次障害が出てきたらと思うと不安である
- ・親なき後の不安

◇福祉従事者の人材育成

◇相談員の不足

◇その他

- ・コロナ感染以降の入所施設側の制限が多い
- ・訓練会の療育キャンプの会場がない
- ・自宅周辺の歩道整備
- ・福祉機器の自己負担の軽減
- ・外出時障害者トイレにおむつ交換用のベッドがない
- ・インクルーシブ教育の地域の学校の現状など



全肢連地域指導者育成セミナー

競輪公益補助事業

障害児者と家族、支援者のための研修事業

日時：2023年11月25日(土)

10:40~16:00

会場：大阪府男女共同参画・青少年センター

内容：私たちが生涯を通して信頼できる成年後見制度について

講師：歩み法律事務所 弁護士 松村尚美氏(熊本県肢連)

参加者：5名(奈良県)

滋賀県の植松会長より医師の立場から成年後見についての話があり、松村氏より「最後までその人らしく生きるための法制度」という内容で講演いただき、大変わかりやすく、来年度奈良県肢連でも会員対象に同じ内容で研修できればと考えています。

奈良県肢体不自由(児)者親子県外交流事業
 “音楽を楽しむ会”
 クラシッククリスマスコンサート
 楽器体験 楽器に触って音を出してみよう!



日時：2023年12月16日(土)
 14:00~15:30

三郷町 吉田輝子

場所：いかるがホール小ホール
 出演者：“に・ちゅ・かんトリオ” 宋和映(ピアノ) 田呈媛(フルート) 佐々木真実(ヴァイオリン) & 北野加織(ソプラノ歌手)

音楽を楽しむ会のコンサートに参加して、心豊かなひとときを過ごさせて頂き、普段の生活では味わうことの出来ない、生の音楽の臨場感を間近で体験できました。

参加者：41名(会員/本人23名、介助者7名、養護学校生/保護者9名、その他2名)

日本・中国・韓国の各国籍を持つ女性音楽家「に・ちゅ・かんトリオ」による演奏、ソプラノ歌手 北野加織さんの歌など多岐にわたり鑑賞しました。有名なクラシックや日本の四季のメロディーなど、思い出深い曲もあり、懐かしさで一杯になりました。演奏者の観客とコミュニケーションを取りながらの演奏は、会場が一体となり、盛り上がりました。その温かい空気に包まれ、とても胸が熱くなりました。またピアノソロ「魔王の踊り」ではまるで魔王が怒り狂って踊っているかのような大迫力がありました。

コンサートの開始前と休憩の時間には、楽器体験コーナーで、ウィンドチャイム、軽く押して音を出せるハンドベル、触れると面白い音が出るオタマトーン、カリンバ(指ピアノ)をそれぞれに体験して楽しみました。

様々な垣根を超えた演奏者の方々の熱意が伝わり「音楽は人に希望や元気を与えられるのだな…」と心に深く染み入る素晴らしいコンサートでした。素晴らしいコンサートを企画、準備くださった皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



奈良養護学校 保護者 梶本たけの
 『音楽を楽しむ会』とても素敵な演奏会をありがとうございました。

普段車椅子の子供と一緒に音楽会に出かけるのはハードルが高いのですが、椅子を動かしたり、痰の吸引ができたり、安心して音楽を楽しむことができました。

「に・ちゅ・かんトリオ」の方々、ソプラノ歌手の北野さん、美しい音色と楽しいトークありがとうございました。特に「くるみ割り人形」では、子供も一緒にその物語の世界に引き込まれ、とても楽しかったです。

また、楽器やサンタの帽子など用意して下さり、クリスマス気分も味わうことができました。

今回は奈良養護学校、明日香養護学校の子供達をご招待くださり、素晴らしい時間をありがとうございました。



明日香養護学校の保護者からの感想は次回号に載せます。



今回の和気あいあいは、奈良市の
“あさひ Ya!カフェ”と大和郡山市の
“はあと”をご紹介します。



原 映子

「あさひ Ya!カフェでのんびりしませんか?」と開業して7年になろうとしています。会員の皆様には、奈良養護学校在職中のご縁からご利用いただき感謝いたしております。

在職中に感じた外出先選びの難しさ。大人用ベッド付きのトイレが少ないこと。食べやすい食事形態の対応ができる飲食スペースが少ないこと。フルリクライニングの車いすでゆったり静かに過ごせるスペースが少ないことなどの思いが源になり、あさひ Ya!カフェをオープンしました。



駐車場から緩やかなスロープを進み、3枚の引き戸を開けると、ゆったりとしたレイアウトで店内に入れます。トイレはもちろん大人用ベッド付きトイレでゆったりと!

貸切でのご利用、食事形態の対応など工夫させていただきながらの営業。いろんな方に知っていただけることも増えてきました。

感染症の蔓延を乗り越えつつある今日。移動支援先、生活介護事業所、特別養護老人ホーム等の施設様の外出支援先としてご利用頂ける機会も増え、安心してカフェタイム、ランチタイムを楽しんでいただいています。



また、コミュニティスペースとして、子育て中や介護中の方、福祉関係の仕事にまい進されている方など地域の方々の憩いの場となるように、アートやハンドメイドを楽しむワークショップを開いております。これも貸切ですること、感染症の心配なく、安心して、のんびりとお好きなことに集中できると好評です。開催内容も、フェルトボール、パステルアート、点描曼荼羅、グラスアート、糸かけアート、クレイ粘土、アーティフィシャルフラワーアレンジ、モフリー、布で彩るリース、ペーパークイリング、己書幸座、ハーバリウムネームプレート、ベンガラ染めなど、様々です。SNSで活動報告も毎回させてもらっており、講師の先生方と繋がり輪がどんどん広がっています。

障がいがある方もない方も、年齢も関係なく、同じ地域で暮らす様々な方が集える、ほこりのんびりできる【コミュニティスペースあさひ Ya!カフェ】

家族で協力しながら、店内の絵のような店になることを今後も目指していきます。ご来店お待ちしております。



“出会い”そして“ともに生きる”ということ

特定非営利活動法人サポートセンターはあと 理事長 菊山礼子

<はあとのあゆみ>

はあとは2000年9月に特定非営利活動法人として認証されました。これまでに数えきれない多くの方々とのかけがえのない出会いがあり、語りつくせない程多くのことを学ばせていただきました。

大和郡山市からの委託の相談支援事業所 大和郡山市障害者生活支援センターはあとは2002年から、居宅介護事業所サービスセンターはあとは2005年から、生活介護事業所はあとは2012年からスタートし現在に至ります。

この20数年の間に世の中は大きく変わりました。まだ措置の時代で制度もなく、養護学校で出会った子どもたち・ご家族と共にあゆませていただきたい、そんな無我夢中の思いだったことを思い出します。そこから多くの方々に支えていただいてあゆんできました。制度は少しずつ整いあの頃からは想像もつかぬほど充実し豊かになりました。しかしながら果たして本当の意味で充実し豊かになったのだろうかと考えさせられることが多い今日この頃なのです。小さなはあとは時代の波についていけないのかもしれませんが、でも時代遅れかもしれないけれど、大切にしていきたいこと、けっしてふれてはいけないことがあります。それは“ともに生きる”という視点だと思っています。サービスということばは苦手です。「サービス利用できますか?」「キャパはありますか?」もちろんとてもだいじなことです。でもその前に一人ひとりの人生に寄り添い“ともに生きる”その視点からつねに物事を考えていきたいとも思っています。

<はあとの日常>

- ・心身ともに健やかな生活の支援
 - ・生活の主体者として季節の中で生きているよろこびを実感・共感できる活動
 - ・お一人おひとりの可能性を大切に自己実現をめざし世界をひろげていく活動
 - ・社会や地域とのかかわりを大切に活動
- をいつも大切に日々を紡いでいます。一人ひとりの存在・笑顔・ぬくもりが宝物です。



<からだの時間>

心身共にリラクゼーションの時間をたいせつにしています



<お花見>南部公民館の桜

四季の移ろいを感じ日々年月をつみかさねています



<避難訓練>

市民安全課・自治会民生委員の方々も来て下さいました。



季節を感じる外出でみんなの笑顔がいっぱいあふれます

<はあとのこれから>

はあと設立から24年、養護学校時代の出会いに遡ると出会いから35年以上の月日をつみかさねてきました。その中で世の中の変化とともに一人ひとり誰しも齢を重ねてまいりました。ご本人の状況もご家族の状況も大きく変化いたしました。

小さくて微力なはあとですが、その変化の中ではあとに届けようとして下さる声を精一杯うけとめこたえられるようになっていと思っています。年齢を重ね今まで通ってきた日中活動の場に通うことが難しくなれなつかしく出会った頃を思い出して下さった方。ご家族での支援が難しくなれ悩み、連絡を下さった方。これからの将来のことが不安でたまらずはあとをたずねて下さった方。“ともに生きる”ことを何より大切にしてきたはあとにとって何をなすべきかを考えています。地域の中で生き生きと安心して暮らし続けていくという思いをいっしょにかなえていきたい、ずっとそう思い続けてきましたが、その道はとても困難でなかなか実現できていないのが現実です。でも今この人生を“ともに生きる”のですから、何をにおいても実現させていかねばと思っています。ご本人の自立、命の自立に全力を注ぎ、地域で“ともに生きる”暮らしの場を実現させたい、障害の重い人たちのグループホームをつくりたい。それが今はあとが目指していること、強く強く胸に抱いている思いです。



数 珠 つ な ぎ

植田小百合さん (西和地域)

わかくさに勤めて

私は、ならファミリーの「福祉の店わかくさ」に勤めて三十年が過ぎました。勤続三十年のお祝いを二日間にわたってしてもらい嬉しかったです。自分でもよく三十年も勤められたなと思いました。辞めたいと思ったこともありましたが、頰椎の手術をしたため一年間休みました。でも復帰した時に出勤時間を変更してもらい、今はほぼ毎日通っています。

私の主な仕事内容は、接客はもちろんのこと、前日の売上げ計算と奈良県収入証紙の売上げのパソコン入力、たばこの注文です。コロナが流行してからは売上げも減少し、流行前はパスポート申請のお客様が一日百人前後来られていましたが、移動制限が掛かってからは一日十人ぐらいの日も。

そんな困難もありましたが、わかくさは閉店しなくて良かったです。今はお客様が徐々にですが増えて売上げも回復してきています。今年の三月からオンライン申請が始まりました。初めて申請される方、継続で申請をされる方で収入印紙と奈良県収入証紙を貼る用紙も金額も違うのでとてもややこしいです。だけどやりがいのある仕事です。ある方が「わかくさは養護学校卒業後の進路目標にしている。」と教えてくださいました。その言葉を聞いてまだまだ頑張ろうと思いました。これからもわかくさに行ける限り通いたいです。



次回は西村周也さんにつなぎます。



祝 成 人

左野 裕二郎さん(奈良市)

左野 佐保

いつも元気すぎて、何かと前代未聞!と言われご迷惑をかけつつ笑いをとりつつ…様々な場所・支援の中でたくさんの人にお世話になりながら毎日を楽しく過ごす裕二郎。

20年前…母のお腹の中には2つの命。ふたりともとても元気に育ってくれていました。そしてふたりとも元気に産まれてくれると…。でも弟の裕二郎は苦しい状態で生まれ、たくさんの管のついた様子を見て、涙が止まりませんでした。こんなに大きく明るく元気に育ってくれるとは!!

いろんなことがありましたが全部笑って話せるのは大きな支えがあったから。たくさんの人に支えていただき愛していただいたからここまで来られました。

これからも裕二郎らしく、元気に明るく!いつも見守り支えてくださる方々に感謝の気持ちを持って笑いで伝えて欲しいと思います。

中家 陸矢さん(奈良市)

陸矢へ

中家 加奈子

あなたが私の元に生まれてきてくれたお陰で、私は自分の天職と出会うことができました。

あなたには、チャレンジしたい母に付き合い、色々と苦勞をかけたかもしれません。ごめんね…

あなたのお陰で、これまで出会ったことのない素敵な方々との出会いが沢山ありました。それは私の人生にとって、成長と、それまで見た事のない彩りのある人生になりました。りっくん、本当にありがとう。

あなたが20歳を迎え、母として次のステージを迎えている事を自覚しています。が…あなたが可愛過ぎて、なかなか子離れできないでいます。

坪田 萌さん(桜井市)

坪田 充代

あっという間に二十歳。生まれた日のこと、長い入院生活を終えて初めて家に帰った日のことを今でも鮮明に覚えています。病気が分かった時は不安と心配ばかりでした。大変なこともあったけれど、たくさんの出会いや周りの皆さんの支えのおかげで、名前に込めた願い通りに元気で過ごせていることがとても嬉しいです。泣いたり笑ったり毎日いろんな事があるけれど、元気に楽しく過ごしている姿を見るのが私たちの幸せです。これからもゆっくりでも萌らしく歩いていってね。萌の人生にたくさんの幸せな出会いがあるよう願っています。成人おめでとう。

植月 優さん(奈良市)

長いようで短い20年

植月 智子

長男は生まれたときに新生児仮死状態で生まれ、精査をしたときに脳に発達障害があり、おそらく正常発育は難しいだろうと担当の先生に言われました。それでも笑ったり、ハイハイしたりしていましたが、一歳を過ぎて重度のてんかんを発症してからは全く感情がなくなり、寝たきりに近い状態になりました。「成人するのは難しいだろう。」と言われ、たびたび入院することもありましたが、通園、養護学校への入学などを通して、たくさんの方々との出逢いに恵まれました。今年、養護学校の先生方や地域の福祉施設の方のご協力もあり無事二十歳を迎えることができました。長いようで短かった20年、ここまで来たら長男より長生きしないといけないので、我々も健康管理を大切にやっていきたいと思っています。今後とも皆さんよろしく願いいたします。

河野 知洋さん(大和郡山市)

河野 正子

仕事先の病院で急遽、入院することになり、もしかしたら会えないかもしれないと覚悟していた時から20年。沢山の温かい手で愛情たっぷりに育てられて人が大好きになったね。お話をするよりも先に歌を歌い出し水森かおりさんの鳥取砂丘を熱唱した4歳児にびっくりやら嬉しいやらでした。こうして20年を振り返ることで色んなことがあったけど、これからの20年も周りの人達に感謝し、家族や仲間と色んな思い出を作っていこうね。

令和5年度賛助会員のご紹介

今年度、当会の趣旨や活動に賛同いただきました皆様をご紹介します。ご支援有難うございます。

NPO 法人介護支援事業所たんぽぽ理事長 大倉佳子様

NPO 法人わかくさもえぎ様

NPO 法人サポートセンターはあと理事長 菊山礼子様

訪問看護ステーションならまち様

日本筋ジストロフィー協会奈良支部支部長 藤田桂子様

社会福祉法人あけび前理事長 松村和泉様

社会福祉法人大倭安宿苑理事長 矢追美壽紀様

一般社団法人おたがいさま様

社会福祉法人バルツァ事業会理事長 田伏清様

NPO 法人ひかりの森様

社会福祉法人こぶしの会理事長 坂下伸一様

田口玲子様

筒井英子様

阿部宜子様

石田京子様

藤本さゆり様

他 匿名希望 2団体様 2個人様(順不同)

ご記入漏れ、お名前間違いなどございましたら事務局まで



今後の予定

1月20日(土)「ともに生きるシンポジウム」
(滋賀県大津市民会館)

1月30日(火)パソコン講習会

奈良県社会福祉総合センター3階

6月3日(月)第55回総会

奈良県社会福祉総合センター5階研修室 BC

12月3日~12月9日は、

障害者週間です

昨年12月6日、近鉄奈良駅・JR奈良駅・近鉄大和八木駅周辺において、他団体とともに啓発物品を配布し広報活動に会員・本人が参加しました。⇒



昨年10月1日、近鉄奈良駅前行基広場において、赤い羽根共同募金運動オープニングセレモニーが開催されました。当会も共同募金活動に参加しました。



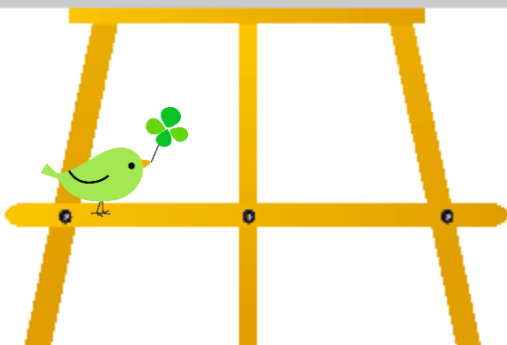
←写真は(一社)奈良県手をつなぐ育成会 住本理事長と

~編集後記~

2024年は十干では甲、十二支では辰にあたるため、甲辰(きのえたつ)の年となります。この二つが合わさる甲辰は、新しいことを始めて成功する、いままで準備してきたことが形になるといった、縁起のよい年になるそうです。9月には、奈良県で初めて全国大会を開催します。

実り多い大会でなりますよう力を合わせて頑張りましょう!

今年も皆様にとってよい年でありますようお祈りいたします。



第57回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会奈良大会 第58回近畿肢体不自由児者福祉大会

大会テーマ(案)	住み慣れた地域で自分らしく生きる ～重層的支援体制 誰一人取り残さない社会をめざして～
開催日程	令和6年9月14日(土)～15日(日)
会場	なら100年会館大ホール/中ホール/小ホール ホテル日航奈良 飛天の間
主催	一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会 近畿2府4県肢体不自由児者父母の会連合会 近畿肢体不自由児協会 奈良県肢体不自由児者父母の会連合会

お問い合わせ 奈良県肢体不自由児者父母の会連合会事務局

第57回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会奈良大会 大会要綱冊子への広告協賛/ご支援のお願い

令和6年9月に全国肢体不自由児者父母の会連合会の全国大会を、初めて奈良県にて開催することとなりました。近畿2府4県の代表として、第58回近畿肢体不自由児者福祉大会も同時開催いたします。肢体不自由児者を取り巻く生きづらさや課題を全国から集う参加者の皆さまと共有し、大会のテーマ(案)を実現していくためのヒントとなるような記念講演やシンポジウム等を計画中です。

つきましては、全国大会の趣旨をご理解いただき、全国から集う500名以上の会員や関係者に配布いたします大会要綱冊子に広告にてご協賛いただきますようお願いいたします。また昨今の世界的な物価上昇の影響で、様々な経費が予定していた金額より高騰しており、懸念しております。重ねましてご理解とご支援いただきますよう宜しくお願いいたします。

以下の通りご協賛、ご支援の方法がございます。

- ① 大会要綱冊子(A4)に以下の広告を掲載する。

1 ページ広告 (掲載料: ¥100,000)	1/2 ページ広告 (掲載料: ¥50,000)
1/4 ページ広告 (掲載料: ¥25,000)	1/8 ページ広告 (掲載料: ¥15,000)
- ② 大会要綱の協賛として1口¥10,000を____口支援する。
(広告掲載は不要、協賛一覧に名称の掲載を希望。)
- ③ ¥____を支援する。
(広告掲載、大会要綱の協賛一覧に名称の掲載は希望しない。)

お問い合わせ 事務局 0744-29-0140